



敬愛

校長 持田 晃

〒183-0027 府中市本町 4-16

☎ 042-361-9303

ホームページ <http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

心が動いた！

校長 持田 晃

令和4年度合唱コンクールを開催しました。今年度の合唱コンクールは、昨年度までの3月開催の合唱祭から時期や内容を変更し、秋に合唱コンクールとして開催する初めての行事でした。

また、開催にあたっては、これまでいくつもの道のりがありました。合唱は、人と人との声によるハーモニーを創りあげることが大切です。しかしながら、この3年間は新型コロナウイルスの影響により、合唱自体の学習がままならない状況にありました。

2年前の本行事は、校内の体育室での学年別の開催でした。そして昨年は、府中の森芸術劇場 ドリーむホールでの開催は実現しましたが、こちらにも入れ替え制の学年別開催でした。保護者の方の参観も同様に入れ替え制とさせていただきました。それでも、昨年ほどの学年も大変に立派な合唱を聴かせてくれて、三中生の底力を感じたものでした。各学年ともほんとに、ほんとに立派な合唱で、他学年に聴かせられない悔しさが心に残りました。



今年は、ようやく3学年がホールに集い、全校での合唱コンクールが開催できました。3学年が集うという大切さは、上級生の合唱を直に感じることにあります。そうなんです。最上級生である3年生は、過去2年間に上級生の合唱を直接感じることにできる機会が無かったわけです。それが、どれだけの影響があるかということは、多くの方がわかっていることです。



今年の合唱コンクールは、ただただ、感動的に聴かせていただきました。1年生の初めてのホールでの合唱。元気よく、みんなの頑張りが、とても伝わってきました。2年生は、声が少しずつ大人の声に変わりつつある中での、合唱の響きが感じられました。3年生は、「さすが」と思えるほどのハーモニーと迫力がありました。3年ぶりに3学年が揃っての開催とは思えないほどの各学年らしい、引き締め、緊張感のある合唱コンクールを見させていただきました。生徒のみなさん、ほんとに素晴らしかったです。心が動かされたことを感じました。保護者の皆様にご理解・ご協力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。中面に特別審査員の畑野茂実先生のコメントを抜粋ですが、掲載いたしました。

今年の合唱コンクールは、ただただ、感動的に聴かせていただきました。1年生の初めてのホールでの合唱。元気よく、みんなの頑張りが、とても伝わってきました。2年生は、声が少しずつ大人の声に変わりつつある中での、合唱の響きが感じられました。3年生は、「さすが」と思えるほどのハーモニーと迫力がありました。3年ぶりに3学年が揃っての開催とは思えないほどの各学年らしい、引き締め、緊張感のある合唱コンクールを見させていただきました。生徒のみなさん、ほんとに素晴らしかったです。心が動かされたことを感じました。保護者の皆様にご理解・ご協力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。中面に特別審査員の畑野茂実先生のコメントを抜粋ですが、掲載いたしました。



令和4年度 合唱コンクール

課題曲	金賞	銀賞
1年生：夏の日の贈りもの	C組：未来へのステップ	A組：My Own Road—僕が創る明日—
2年生：予感	C組：この地球のどこかで	E組：地球の鼓動
3年生：大地讃頌	A組：航海 組曲「海の詩」から	F組：流浪の民

特別審査員 畑野茂実先生からのコメント（抜粋）

今、終わってみて達成感、充実感がありますか。それとも、ここをああすればよかった、こうすればよかったという後悔、反省の方が強いですか。人によってそれぞれだと思いますが、今日一日聴かせてもらって私としては本当に楽しいすばらしい一日でした。君たちの音楽に感謝、ありがとうございました。そんな気持ちです。

コンクールですから金賞とか銀賞とか賞がつかます、もちろん君たちもそれをめざして日々練習をしてきたと思いますが、もう一つ大切なことは、学校でやるこういうコンクール形式の音楽は、この数分間の中でそれぞれのクラスが同じ曲で、全員が同じ目標をもって気持ちを一つにして歌う、真剣に歌う、みんなが集中して歌う。そして歌だけではなく、それをリードしてくれる指揮者、ピアノ伴奏、本当にクラス一丸となって、心と心のハーモニーを引き出せることが校内の合唱コンクールのもう一つの目的だと思います。きっと君たちもそれを達成することができたのではないかと審査しながらも感じていました。

さて、講評に入ります。全体的なこととしては本当にみんながとにかく一生懸命音楽に取り組んでいるというそのすばらしさがまず第一印象でした。やはり音楽ならではの魅力というものをまずは自分たちが味わい、それを表現する。そして聴いている人にそれが伝わる。どの学年ももちろん技術的な差はあったにしてもそのことが達成できていました。

1年生。非常に元気があってとにかく一生懸命に音楽を表現しようというエネルギーがあって熱唱しているライブ感。まさにその時、その場の音楽を見事に表現することができていました。小学校の時はコロナの関係でほとんど歌えてなかったという話を聞きましたが、全然そんなことを感じさせない立派な歌声でした。歌には歌詞があります。やはり歌詞を大切にしてもらいたい。出しやすいところだけ、ぼーんと声が出て、出しにくいところは声が引っ込んだりではなく、出しにくいところもちゃんと安定した言葉の発音で歌詞がちゃんと聞き取れて音楽の流れができる。そういうことが必要です。

2年生。さすが、一つ学年が上がり、男子の声が大人の声に近づき、サウンドの厚さ、安定感が出てきました特に自由曲の表現力。ちゃんと考えられた表現ができていて、曲の展開に合わせて、どうやって音楽を表現しようかということが伝わってくる合唱が各クラスできていたと思います。ただし若干男子の方で頑張りすぎて1年生と同じように「喉声」になってしまい、響きのない声が聞こえたりすることがありました。常に響きを考えた発声をすると思います。

さて、3年生。いや、もうほんとにすばらしい。音楽の技術力、表現力。「これクラス合唱かな？」と思うくらい非常にレベルが高かったと思います。その一つの証（あかし）と言いましょか、会場の空気がビーンと張りつめる。そして歌が歌い終わるとふうっと空気が緩む感じ。レベルの高い音楽であればあるほど、自然とそういう空気になるものです。そして客席を巻き込む。そういう音楽が各クラスともできていたと思います。3年生の音楽性、合唱レベルの高さにびっくりしましたし、本当に感動しました。すばらしかったです。3年生はこれで中学校での合唱コンクールは最後となりますが、今回君たちはすばらしい経験をしたと思います。この経験を生かして高校生になっても頑張ってもらえたらと思います。

音楽はすべて、まずその「響き」を意識する、きれいに響かせる、ということがホールで演奏する時にすごく大切なことです。

その後の選抜合唱、すばらしかったです。ベートーヴェンの「第九」、難しい曲なんです。ベートーヴェンが作曲した当時は耳が聞こえない中で自分が追い求める理想の音を音符にしていたので、その当時の音楽家たちは「とんでもない難曲」、「こんな難しい曲どうやって演奏するんだ」そんな評判が立つほど難しい曲でした。それを、なんと今のこの時代に中学生が歌えてしまう。

そして次の「校歌」。冒頭で紹介された通り、私は府中三中卒業生です。久々に校歌を聴かせてもらって、とても懐かしい思いと同時に、「立派な校歌だなあ」と驚きました。当時はまだ合唱になっていなかったのも、すごい立派な校歌になったな、と思いながら聴いていました。そしてとても懐かしい気持ちにさせてもらいました。ありがとうございました。

本日の催物	
会場	どりむホール
府中市立府中第三中学校 合唱コンクール	
午前	午後
開場	9:20 12:45
開演	9:45 13:00
終演	12:00 15:10

声

声

学校には、地域の方からの声が届きます。
良くないことも良いことも……。

その1

中学生と思われる数名が、歩道を横に広がって歩いている。しかも、大きな声でしゃべっている。うるさいし、迷惑だ。

その2

雨で家の門が開けられず、困っているところを中学生の男の子がびしょぬれになりながら開けてくれて、とても助かった。

その1は、定期考査の日や一斉下校の時にいただく声です。先生方も迷惑をかけていないか、地域の巡回に行きます。600名もの人が一斉に動くのですから、周りに気を付けてください。

その2は、お礼の電話です。困っているときに行動をしてくれたことに対する連絡です。こういったお礼の連絡をいただくことがあります。

皆さんは、地域の人に見守られているのです。一人の良くない行いも、一人の良い行いも府中三中の生徒になります。個が全体を、全体が個を表します。皆さんは、どんな風に思われますか？

ボランティア活躍中

水やりボランティア

毎週水曜日の朝7:30に集合し、黙々と活動を続けています。

夏は、花壇の水やりがメインでしたが、秋は落ち葉拾いがメインとなります。

現在登録者70名(11/15現在)に達しました。チャンスはあと1回!11月30日(水)が最後となります。登録し、ボランティアに参加してみてもいかがでしょうか?

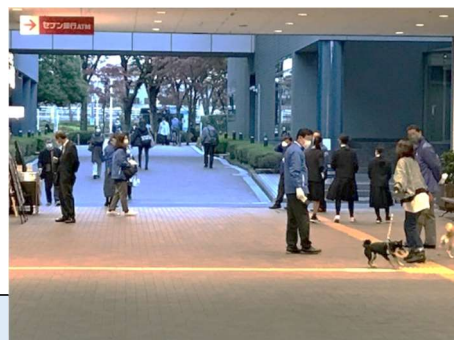


美化委員会も朝清掃ボランティアをやっています。



青少対の街頭広報ボランティア

こちらは11月1日(火)に行った。青少対の街頭広報です。青少対の活動を紹介するリーフレットを入れたポケットティッシュを配ります。大人が配るとあまり受け取ってはくれませんが、生徒が配ると快く受け取ってくれます。この日は、生徒会役員の7名がボランティアとして参加し、約40分で終了しました。



私の「心に残ったあの一言」

道徳の窓
NO50

「齊藤君にしては気持ちを入れて作った」

副校長 齊藤 信一郎

小学校5年生の時図工で「竜の落とし子」の木彫りレリーフを制作しました。作品の裏に貼られた紙に書かれていた担任の先生の言葉です。好きな教科は図工でしたが、授業中友達と話しをするなどあまり制作に集中していませんでした。ただなんとなく作る感じでした。しかしこの木彫りは集中して作りしました。図鑑を参考にして形の動きをよく見てスケッチをして、単純化した強い線で下絵を描きました。彫刻刀で絵柄の余白をひたすら深さ1センチ近くまでそろえて彫り、「竜の落とし子」が浮き上がるように工夫しました。最後まで夢中で彫り切り、仕上げのやすり掛けも丁寧に掛け、できた作品は満足のいくものでした。完成後クラスの木彫り人気投票で2番になりました。初めて先生に褒められて嬉しかったです。

三中生の活躍

(敬称略)



ハンドボール部

「9ブロック 新人大会」
男子 「優勝」
女子 「優勝」



バドミントン部

「第23回東京都中学校第9ブロック大会」

女子ダブルス	「優勝」	2年	山本 咲良	／	笹沼 凛奈
	「第三位」	2年	安高 愛香	／	鳥海 美空
男子ダブルス	「準優勝」	2年	見津田 侑翔	／	岡村 僚馬
	「第三位」	2年	正田 束颯	／	1年 上野 貴裕
	「第三位」	2年	町屋 優馬	／	平工 翔一
女子シングルス	「第三位」	2年	江口 樹奈		

第33回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞

中学生の部

「優秀賞」	3年	中山	瑚子
「佳作特別賞」	3年	古川	颯大
「佳作」	3年	加藤	璃音
「佳作」	3年	露崎	萌果
「佳作」	3年	小池	加梨



カトレアや白鍵にふるえる手指

ストーブにとける私とチョコレート

夏来る雨粒踊るンホール

冬景色木々の枝にも髪飾り

冬の朝世界広がる新聞紙